

新時代の鉄道と国土

Railways and the land of Japan in a new era

特集担当主査：竹川直希

特集担当副査：峪龍一

特集企画担当：青柳広樹、泉真利子、大坪裕哉、大平悠季、川口大輔、中野太雄、西岡英俊

ABSTRACT

This special feature focuses on the contribution of the railway network improvement to the development of land in Japan. Since the birth of railway in Japan in 1872, the improvement of the railway network has played a significantly important role in the growth of Japan's industry and economy. This special article discusses the effect of transportation system on the national spatial development strategies in Japan. First, the ideal shape of future transportation is described and introduced, where, the beneficial effect that the Chuo Shinkansen stations will newly bring on the land development and the distribution system is taken up as one topic. Next, we look at the local transportation network, which has various issues to solve owing to the population decline and other concerns. We have to consider the stimulating strategies to revitalize the local regions. Finally, a new technological innovation is introduced that helps to realize the sustainable maintenance and development of national land and transportation. We hope that this article will contribute to the active discussions on development of the land of transportation in Japan in the future.

鉄道の進化と国土の発展

日本では鉄道が誕生した明治時代以後、「殖産興業」の名のもとに、新たな産業が次々に興された。鉄道の誕生はこれまでの物資の輸送手段や人々の移動手段に大きな変革をもたらした。鉄道や電信が敷設され、政府主導のもと、製鉄所や造船所、製糸工場などが次々と設立されていった。これに伴い国は強くなり、国が強くなるとともに国土もその強さを増していった。

国と国土の発展とともに鉄道はそのネットワークを広げていき、鉄道の発展は国土をさらに発展させた。例えば、1964年に開

業した、世界初の高速鉄道である東海道新幹線は、日本の二大都市である東京・大阪間の移動時間を大幅に短縮し、当時の日本の国土構造や社会構造に劇的な変化をもたらした。拡大・進化を続けている高速鉄道ネットワークは国土形成に大きな役割を担っている。

国土形成計画における交通ネットワークの役割

一方、未曾有の人口減少、少子高齢化、頻発・激甚化する自然災害、COVID-19感染拡大（以下、コロナ禍）を経た新たな暮らし方・働き方への変化などを背景として、日本における国土形成上の課題は多い。2023年7月に閣議決定された第

三次国土形成計画では、「シームレスな拠点連結型国土」を基本構想として「新時代に地域力をつなく国土」列島を支える新たな地域マネジメントの構築」を指すこととしている。基本構想では、リニア中央新幹線、新東名・新名神高速などにより

三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」の形成による地方活性化、国際競争力強化や地方の中心都市を核とした地域生活圏の形成を目指している。そこで、本特集では、まず、鉄道・道路のネットワーク形成が国土に与える影響、上記国土形成計画の中で中央回廊を形成するリニア中央新幹線の役割やリニア中間駅が創り出す拠点圏域の可能性と国土の発展や、



写真1 富山駅 北陸新幹線とLRT (出典:JRTT鉄道・運輸機構)

昨今ますます活発となっている新しい物流の形について取り上げる。

鉄道と国土を維持・発展させるための課題と対策

人口が集中する都市部の交通ネットワークが拡大し、強固なものとなる一方、地方部に目を向けると、地方

のローカル鉄道は、赤字経営、担い手不足、老朽化する設備の維持更新、整備新幹線の新規路線開業に伴う並行在来線の第3セクター化による利便性の低下など、存続のためのさまざまな課題を抱える。先に述べた国土形成計画では、地域力の向上のためには地域課題を克服する「守りの方」と地域の魅力を高め人々を引きつける「攻めの方」の必要性を論じている。日本の国土をより安全で強固なものとするためには都市部だけでなく、地域力を向上させ、基本構想でかかげる「シームレスな拠点連結型国土」を目指しているのである。

課題はそれだけではない。コロナ禍を経て、日本の生活様式や働き方は大きな変化を遂げた。コロナ禍の初期には、人々の移動は大きく制限された。また、リモートワークが急速

に普及したことで、鉄道利用者数は減少し、COVID-19が5類感染症に移行した後も、コロナ禍前の需要には戻っていない。

一方、コロナ禍で制限された直接ものを見る、聞く、触れる、経験することや対面コミュニケーションがより大きな意味を持つことになった。コロナ禍後は観光需要が増加し、地方の活性化にもつながっている。かつて移動手段や物資輸送の手段であった鉄道の役割も変化してきており、豪華列車やイベント列車に代表されるように鉄道に乗ること自体が目的となっていることも多い。東海道新幹線の中でプロレス開催など開業当初では考えられなかった鉄道利用も行われている。また、新幹線を利用した新たな物流の形も登場してきている。本特集ではこうした鉄道の新しい形や地方における鉄道の課題、鉄道が果たす地域力の強化について紹介する。

特集の最後には、働き方改革や建設業の担い手不足の中、生産性を向上させ、持続可能なインフラメンテナンスを実現する技術や、日本が国をあげて取り組む鉄道の海外展開が

国内外の技術の発展や海外の国土の発展につながる影響についての話題を取り上げ、多くの課題を抱える中でも国土を維持・強化し、持続可能なものとする取り組みを紹介する。

未来の国土のために

本特集は、日本が近代国家として歩み始めた明治時代が始まってからわずか5年後に誕生し、その後日本の国土形成に大きな役割を果たしてきた鉄道と国土の関係について取り上げるものである。特集タイトルを単なる「鉄道と国土」ではなく、「新時代の鉄道と国土」としたことは理由がある。前述したように国土を発展させていくためにはさまざまな課題があるが、これらの課題に負わず、日本がさらに大きく成長し、国土が強くなっていく未来の姿と新しい時代をイメージし、これらを実現させたいという思いから「新時代の鉄道と国土」とした。安全・安心でより利便性の高い国土を形成していく過程で関わりを持つ方々にとって、本特集が一助となることを期待したい。